

令和6年5月28日
鹿行農林事務所経営・普及部門
(銚田地域農業改良普及センター)

台風及び降雹・突風・短時間大雨の対策について

台風1号が接近中です。また、例年、春から初夏は、降雹・突風・短時間大雨が発生する場合があることから、気象災害対策情報を作成いたしましたのでご活用ください。

1. 共通事項（一般）

（1）事前の対策

- ・ほ場から速やかに排水ができるよう、排水路の点検や明渠の清掃、補修を行っておく。
- ・排水ポンプを準備しておく。
- ・収穫物の保管場所の浸水被害が想定される場合は、安全な場所へ移動しておく。
- ・暴風雨等の最中の行動は危険なので、ほ場、施設の見回りは行わない。

（2）事後の対策

- ・暴風雨等が過ぎた後の見回りにおいては、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。特に、大雨により被害を受けた地域においては、引き続き、土砂災害に細心の注意を払い、人命を最優先に行動し二次災害の防止に努める。
- ・冠水及び浸水した場合は、排水ポンプを用いるなどして、速やかに排水する。
- ・病害への対策については、ほ場の冠水または浸水、過湿などにより病害の被害を受けやすくなることからの確な防除に努める。
- ・被災後、機器等への通電を再開する際には、使用マニュアルなどの手順や注意事項を確認するとともに、漏電やショートに留意した対応を行う。特に、浸水した農業機械は、スイッチを入れた場合にエンジン破損やバッテリー、電子制御装置等の漏電、発火の危険があるため、メーカーによる点検を受けるまではスイッチを入れない。
- ・台風通過後は高日射、高温が予想され、熱中症の危険性も高まるため、高温下での長時間作業を避け、こまめな水分と塩分の補給や休憩を取るよう心掛ける。

2. 共通事項（園芸施設）

（1）事前の対策

- ・ハウス周辺の排水場所を確認しておくとともに、ハウス外周の排水溝やハウスの谷樋、縦樋を清掃しておく。
- ・ハウスの周囲を片付けておき、強風により物が飛散しないようにしておく。
- ・燃料タンクやガスボンベ等をしっかりと固定する。
- ・被覆材の破損や出入口の破損部位等から風が吹き込み、ハウスが破損するのを防ぐため、被覆材の破れ、ハウスパンドや被覆材取り付け金具等に緩みがないかを点検し、

必要な補修、調整を行う。

- ・ボルトやブレースを点検し、緩んでいれば締め直す。
- ・停電に備え、天窓、側窓、内張カーテンの開閉等、手動操作の動作確認をしておく。
- ・台風襲来直前には、出入り口を密閉し、換気扇を稼働させてハウス内を減圧する。
- ・強風で倒壊する危険がある場合は被覆材を除去する。

関連情報リンク先

<茨城県農業用ハウス災害被害防止マニュアル>

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nougi/kenfu/housemanual.html>

(2) 事後の対策

- ・開口部を開放して湿度の低下に努める。
- ・潮風害を受けた場合は、速やかに散水して除塩する。
- ・ハウスに入る前に、燃油、ガス等の臭いがないか、破損したガラスがないか等を確認し、安全を確保する。また、燃料のタンクや配管、暖房機から燃料の漏れがないか、機器が安全に運転可能な状態か、を確認する。
- ・ハウス等損傷した場合は、早期に修理するとともに、補修資材の調達が困難な場合は、当面の栽培管理への影響を軽減するため補強やテーピング等の応急措置を行う。
- ・停電があった地域では、加温、天窓、被覆、養液栽培等を制御する機器の条件設定が初期化される場合があることから、停電復旧後、設定を確認するとともに、天窓、側窓、内張カーテン等が正常に作動するかを確認し、異常がある場合には修繕する。

3. 野菜

(1) 事前の対策

- ・支柱やネット、誘引紐を点検して確実に固定し、必要に応じて補強する。
- ・露地の果菜類や豆類では、不要な茎葉を摘除して風の影響を抑え、また収穫できる果実や豆は全て収穫しておく。
- ・露地の葉菜類では、べたがけ資材、寒冷紗等で被覆する。
- ・ネギでは、倒伏防止のため、あらかじめ土寄せを行う。

(2) 事後の対策

- ・茎葉の損傷や冠水があった場合は、病害(特に細菌性の病害)が発生しやすくなるため、折損部位の除去や薬剤散布などの防除対策に努める。
- ・べたがけや寒冷紗等は、風が収まったら速やかにはがす(吹き返しの風には注意する)。
- ・茎葉に付着した泥を洗い流し、損傷した茎葉を摘除する。
- ・ほ場が浸水及び冠水した場合は、通路と排水溝、明渠をつなげ、必要に応じて排水ポンプを用い、速やかに排水する。特にネギやバレイショは湿害に弱いので注意。マルチ栽培では、排水状況に応じてマルチをめくって土壤を乾燥させる。
- ・バレイショやカンショ等の露地マルチ栽培で湛水し、枕うねが排水を阻害している場合は、状況に応じて枕うねを途中で切り、排水を促す。
- ・作物が倒伏した場合は、速やかに誘引し直し草勢の回復を図る。
- ・土壤乾燥後の軽い中耕、追肥、葉面散布等により、発根、草勢の回復を図る。
- ・被害を受けた収穫中の果菜類では、草勢低下を防ぐため、摘果や若どり着果負担を軽減する。また、出荷基準に応じた選果選別に留意する。

- ・軟弱野菜や果菜類では、天候回復後の強日射や高温となった場合に、萎凋や日焼けを起こしやすいので、遮光資材を用いて日射を制限する。
- ・ネギが倒伏した場合は、「曲がり」の原因となるので速やかに丁寧に起こす。新葉の伸びが確認できたら土寄せする。

4. 花き

(1) 事前の対策

- ・露地においては、倒伏による曲がり等が発生しやすいので、支柱・フラワーネットの点検、補強、または土寄せ等を行う。
- ・収穫可能な花は全て収穫する。

(2) 事後の対策

- ・露地切花等で倒伏したものは、速やかに起こし、茎の曲がりを極力抑える（長時間置くと回復しなくなる）。また、折損した茎葉は摘除し、下葉の泥はきれいな水で洗い流す。
- ・病虫害予防や草勢回復のため、必要に応じ、薬剤や液肥の散布を行う。

5. 果樹

(1) 事前の対策

- ・多目的防災網や防風ネット、果樹棚支柱を点検し、補修、補強を行う。
- ・棚栽培では、風による上下動を抑えるため、棚面の随所に支柱による突き上げとアンカーと針金による下方への誘引を行う。
- ・ビニルハウスでは、ビニルの緩みや破れ、隙間の点検、補修を行う。

(2) 事後の対策

- ・降雹では、1週間後程度で果実の障害判別が可能になるので、被害面や上面をよく確認し、着果数不足の懸念がある場合は、軽微なものはなるべく残すよう丁寧に摘果を行う。
- ・枝折れした場合は切り戻しを行い、切断面に保護剤を塗布すること。軽い股裂けの場合は、ひも等で結束して傷口に保護剤を塗布し、樹勢回復を図る。
- ・落葉等葉の損傷が著しい場合には、葉面積確保のため強い新梢の間引きや摘心は控える
- ・樹勢低下がある場合、地上部の枝を適度にせん定し、摘果で着果負担を少なくする。

6. 水稻

(1) 事前の対策

- ・水田の排水路の詰まり等がないか点検する。また、大雨の前に十分減水したうえで、一定量以上の水かさになると落水する対策を講じる。

(2) 事後の対策

- ・冠水被害は、葉先が少しでも水面に出ていれば軽くなるので、速やかな排水に努めて稲体を水面上に露出させ、排水後は清水に入れ替える。
- ・冠水被害を受けた稲体は水分調節や肥料吸収等の機能が低下することから、根の活力を保つよう水管理を徹底し、応急的な通水で水分の補給に努める。
- ・冠水後は黄化萎縮病、白葉枯病が発生しやすい。また、雹による傷でも白葉枯病が発生しやすくなるので、その後の発生に注意し、発病を認めたら速やかに薬剤散布を行う。